

羽はたけ! とどもたち

大堀 寛人

⑭

す。ハート形の葉っぱが目印。「あったよ!ハート形の葉っぱ!」。ツルにくっ付いている実を手際よく採っては、口いっばいにほお張ったり、ポリ袋に集めたり。「後でいって食べようね」という先生の提案に思わず笑みがこぼれます。

「実りの秋」は、「ぶれいすくーる・ちゅーりっぷ」のこどもたちにとって、「収穫」を楽しむ季節。アケビやムカゴ、マテバシイ、イヌマキなど、自然の「おやつ」を見つけようと、ポリ袋を持って広島市内の公園に出掛けま

す。南区の比治山公園では、イヌマキの実を求めて歩き回ります。いろんなイヌマキの木をほしごしながらの「食べ歩き」に夢中になります。それに飽きると、木登りしたり、枝を引っ張ったりして、秋グ

収穫つて楽しい!

「生き抜く」知恵を学ぶ

ミ採り。大きくて真っ赤な実が甘いことを知っている年長クラス(五・六歳児)のこどもたちが、二・三歳児のクラスの子ビちゃんたちに、とっておきの収穫物を分けてあげる光景を見ると、ほのほのとした気持ちになります。

秋は、畑で野菜を収穫する楽しみもあります。安佐北区の市野外活動センターでは、

出て来ます。そんな経験から、葉っぱと茎と芋の関連性を認識したり、「いもづる式」という言葉の意味も実体験として知ることができるとのことです。

食べ物「収穫」することには、多くの「学び」が含まれています。こどもたちは「待つ」ことが嫌いです。しかし、木の実やイモの収穫は、採る楽しさ、食べる楽しさとともに、来年の収穫まで「待つ」

楽しみを与えてくれます。そして、自然の中で食べ物を採り、おなかを満たすことは「生き抜く」ための知恵や、たくましさにつながります。

スーパーマーケットに行けば、どんな食品も簡単に手に入る時代。そんな中で、こ

どもたちに「生きる」ための本能をよみがえらせてくれる貴重な体験なのです。

(ぶれいすくーる・ちゅーりっぷ 広島市西区 園長)



「自然のおやつって、おいしいね」。鬼が城公園でムカゴの実を採るこどもたち (園提供)

西区の鬼が城公園では、みんなでムカゴを捜しま